

ダイバーシティを尊重する地域づくりを目指して

いちやり場通信

September 2022
No.85

「新たな多文化共生の 地域づくりウェビナー」を開催!

(一財)ダイバーシティ研究所 代表理事の田村太郎氏を講師として招聘し、「VUCA時代における多文化共生の地域づくり」をテーマに9月13日(火)にウェビナーを開催しました。

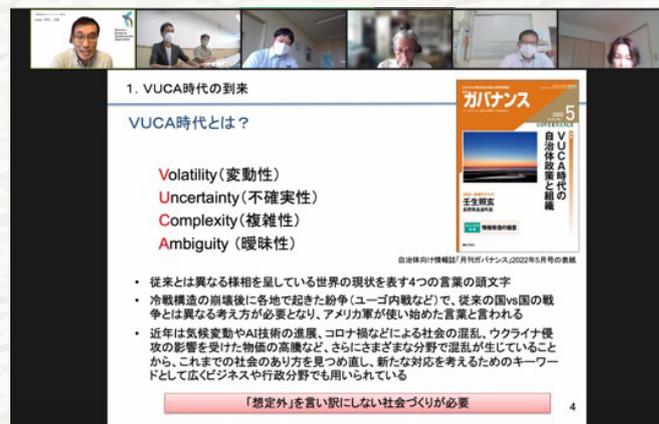
「VUCA(ブーカ)」とは「VOLATILITY(変動性)」「UNCERTAINTY(不確実性)」「COMPLEXITY(複雑性)」「AMBIGUITY(曖昧性)」の頭文字をとった、先行きが不透明で混乱する社会の状況を示すことばで、新型コロナウイルス感染症の拡大やロシアによるウクライナ侵攻、また気候変動など、まさに現代社会を形容する言葉であり、そのような中において在住外国人との共生社会をどのように展開していくことができるか考察しました。

講座では、VUCAとして直面している日本を取り巻く様々な危機は、実は昔から想定されていて、それらに対応してこなかったツケが表面化してきていることや、多様性を尊重する社会へ転換するチャンスである一方、多文化共生推進の重要性を行政やNPOが共有し、相互に役割を果たすことの重要性を説かれました。

参加者からは、「社会や価値観が大きく変わって来ていて、従来の枠組みで考えていたらだめだとなんとなくは思っていました。何が起きているのか、なぜ起きているのか、理解できた。」や「自分では思ってもいなかった視点もあり、いままで考えていたことを近い部分もあり、いろいろなことを学び考えることができました。」などの感想が数多く寄せられました。

今回のウェビナーの参加者が10名と少なかったことは、

裏返せば「VUCA」や「多文化共生」「ダイバーシティ」の現実がまだ県民には身近に思われていないことの現れだと言えます。OIHFでは、引き続き関連するウェビナーを開催し、一人でも多くの皆様に理解を深めていくことで、このVUCA時代における「多文化共生の地域づくり」を自分事として考えることができるよう努めて参ります。



公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF)

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16

HP:<https://kokusai.oihf.or.jp>

TEL:098-942-9215 FAX:098-942-9220

FB:<https://www.facebook.com/oihf60>

災害時の人間心理と「いのち」を守る 防災・減災行動をテーマにしたウェビナーを開催！

去る7月30日(土)に常葉大学社会環境学部教授 河本尋子氏を講師として招聘し、「災害時外国人支援サポータースキルアップウェビナー」を開催し、30名が参加しました。ウェビナーでは、災害時の避難行動を阻害する要因として、集団の中にいるとついつい他人と同じ行動を取ってしまう「同調性バイアス」と、これくらいなら大丈夫という心理「正常性バイアス」の特徴をそれぞれ確認しました。また、講座後半ではクロスロードという過去の災害事例を基に作られた2択のゲームを行い、グループとなった参加者が、災害時に直面する2択状況で、どのように対応するのか、グループとして1択を選ぶプロセスなどを体験しました。

参加者からは、「こういったウェビナーには初めて参加しましたが、いろいろな方の意見が聞けてとても参考になりました。地域の特性や業種によっていろいろな考え

方があって、もっと多方面から防災について考えていけるようにしていきたいと思います。」や「正常性バイアスや同調性バイアスによる避難の遅れがあるのは、事前学習で知っていましたが、無線やサイレンが壊れていたり、誤ったアナウンスが原因で認知バイアスが形成されるというのが印象に残りました。これは、災害時にあってはならないものであるので、行政や防災機関が日頃から訓練・点検を行う必要があると感じました。」などの感想がありました。

今回実施したウェビナーは、災害心理学というOIHFが実施してきた講座の中で初めて導入した分野であり、内容に関して参加者からも大変好評を得ました。今後は、毎年実施している「災害時外国人支援サポーター養成講座」の一コマに本ウェビナーを取り入れ、参加者理解をさらに深めていきたいと思っています。



ウクライナ避難民受入支援のための 「相談窓口」を開設しました！



2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻により、多くのウクライナ国民が戦禍を逃れ、他国への避難を余儀なくされる中、沖縄にもウクライナ避難民が来沖しており、今後さらにその数が増えることが予想されます。

沖縄県において避難民の受入体制を確立し生活支援につなげるため、沖縄県から「ウクライナ避難民受入支援事業」を受託し、在住外国人のみならずウクライナ避難民にも対応する相談窓口を開設しました。

在留資格の取得や住民登録などの各種手続き、また医療機関への通訳の派遣支援などを行っています。

日本語 にほんご	Українська мова Ukrainian	Українська мова Ukrainian	Русский язык Russian	Русский язык Russian	English English	Українська мова Ukrainian	Русский язык Russian
OIHIF Оішайський міжнародний фонд обміну та розвитку людських ресурсів Консультаційні послуги для іноземних резидентів Безкоштовна консультація \ Ми зберігаємо це в таємниці. / ✉ kokusai@oihf.or.jp				OIHIF Оішайський Фонд Міжнародних Обміну і Розвитку Чоловічого Потенціалу Консультаційні послуги для іноземних резидентів Бесплатные консультации \ Мы сохраним вашу конфиденциальность / ✉ kokusai@oihf.or.jp			
Повсякденне життя Статус проживання Медичний Добробут Різні процедури				Повседневная жизнь Вид на життєвство Медицина Соціальне забезпечення Разлічні процедури			
Консультації приймаються електронною поштою. ОіHF не має перекладачів українською та російською мовами. Якщо вам потрібен перекладач, домовтеся про зустріч електронною поштою. 沖縄県委託事業「ウクライナ避難民受入支援」				Консультации принимаются по электронной почте. У ОіHF нет своих переводчиков с украинского и русского языков, поэтому если вам нужен переводчик, пожалуйста, договоритесь об этом по электронной почте. 沖縄県委託事業「ウクライナ避難民受入支援」			
Контактна інформація: Оішайський міжнародний фонд обміну та розвитку людських ресурсів TEL: 098-942-2115 E-mail: kokusai@oihf.or.jp 9:00~17:00 Понеділок~П'ятниця (крім святкових днів)				Контакт: Оішайський Фонд Міжнародних Обміну і Розвитку Чоловічого Потенціалу TEL: 098-942-2115 E-mail: kokusai@oihf.or.jp 9:00~17:00 Понеділок~ п'ятниця (за виключенням державних святкових днів)			

災害時に役立つ

「やさしい日本語」セミナーを開催しました

去る8月9日(火)に沖縄産業支援センターにおいて、「災害時に役立つやさしい日本語セミナー」を開催し、18名が参加しました。セミナーでは、沖縄県内における外国人の在住状況を概観し、やさしい日本語とは何なのか、またやさしい日本語化する際の注意点などを確認しました。

参加者からは、「今回の講座を通して、普段、何気なく使用している日本語をやさしい日本語に言い換えることが如何に難しいかを痛感しました。外国人と接する機会が多い職業なので、職場全体でやさしい日本語を意識できるように取り組んでいきたいと思えます。また、災害時に直面するストック情報とフロー情報の話を聞いて、改めて、外国人には、日本で暮らすために必要な情報が不足しており、積極的にやさしい日本語で情報発信していく必要性を感じました。」や「やさしい日本語を必要としているのは外国人だけではないと思えます。災害時のみならず、日常的にも「やさしい日本語を知っている人」「やさしい日本語を使える人」が増えることが、本当の意味での「共生」だと思えます。そのために、参加者が、「難し

いと感じて終わる」のではなく、「やってみよう」と一歩を踏み出せる」といいなと思いました。」などの感想が寄せられました。

OIHFでは、今後も同様のセミナーを実施することで「やさしい日本語」の推進に取り組み、在住外国人の皆さんの住みやすいまちづくりに寄与して参ります。



外国人起業支援セミナー

を開催しました!

去る9月3日(土)に沖縄産業支援センターで「外国人起業支援セミナー」を開催し、14名が参加しました。セミナーでは、株式会社琉球銀行法人事業部 地方創生グループ長 具志孝一郎氏を招聘し「起業や融資の際のポイント」についてわかりやすくご講義いただきました。また株式会社ILC代表取締役 ロ・メイシン氏は、「個人または法



人として起業することのメリットやデメリット」、また「個人や複数人で起業するとどのような課題に直面するか」などとても興味深いお話をいただきました。

参加者からは、「今回、外国人がテーマでしたが起業となると今までと違った視点と感じました。銀行で使う専門用語、起業時の税務署や法務局などとの関係、色々な手続きに必要な専門用語など混乱しながら難しさを感じました。私にとって新たな世界になりますが今後、外国人起業支援に必要な知識について勉強していきたいと思えます。」「今回は、リーガルライフサポーター、今後自分自身が起業する可能性、今後自分自身が外国人経営者のもと日本で働く可能性と複数の異なる目線で参加させて頂きました。ずっと組織に雇われて今まで働いてきましたので、起業の基本の基本について知ることができ、大変勉強になりました。」等の感想が寄せられました。

今回は台風の接近もあり開催が一時危ぶまれましたが、無事に実施することができました。OIHFでは、本セミナーを定期的実施することで起業に興味を持つ外国人を支援して行きます。

在住外国人の生活や労働環境の向上に責任を持つ

プラットフォーム「多文化共生推進アライアンス」の加盟団体が増えました!

沖縄労働局と福岡出入国在留管理局那覇支局との3者間協定を基にOIHFが運営しているプラットフォーム「多文化共生推進アライアンス」に多くの企業・団体にご賛同いただきご加盟いただきました。

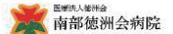
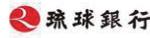
本プラットフォームは、在住外国人の生活や労働環境に責任を持つ企業や団体を認証する制度です。認証を受けるとOIHF専用のHPに外国人材の求人情報を掲載できる他、外国人求職者とのマッチングサービスを利用することができます。

また、OIHFが労働や在留資格等の諸問題に対応する企業等の相談窓口としての役割を果たします。

県内には、外国人材を雇用する企業等が2,500ほどありますが、本プラットフォームと多文化共生社会の推進に賛同する企業や団体に対して、少しずつ啓発し加盟団体を増やして参りたいと考えております。

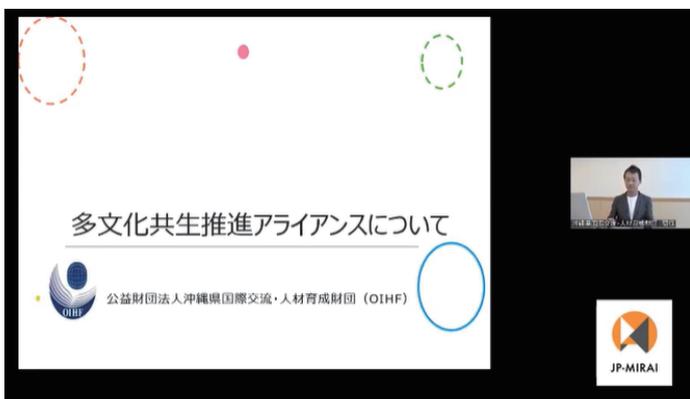
加盟団体

Membership



Forum

「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム (JP-MIRAI)」の公開フォーラムにおいて、OIHFの事例を発表しました



OIHFも加盟する「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム (JP-MIRAI)」が開催する公開フォーラムが去る7月5日(火)と8月25日(火)に開催され、両フォーラムにおいて在住外国人の生活・労働環境の向上に向けたOIHFの取り組み事例(多文化共生推進アライアンス)を発表しました。

本事例は、外国人の生活や労働環境に責任を持つ県内企業を認証する制度です。発表の様子は、QRコードからご覧いただくことができます。本動画をご覧いただき、引き続き多くの企業の皆様にご賛同いただくと幸いです。

https://www.youtube.com/watch?v=QMzmSO_7bH0&t=2s



OIHF 医療通訳者からの寄稿



「医療通訳者養成講座の 受講を通して」

モリシー多恵 さん

初めまして、モリシー多恵(たえ)と申します。
早速ですが、これをお読みのみなさん、ちょっと想像してください。
例えば、旅行先の台湾で耐え難い激しい腹痛襲われ、現地の病院を受診せざる得なくなったら、あなたならどうしますか。
沖縄からは目と鼻の先とはいえ、文化も言語も医療制度も異なる異国。
私なら、動揺します。40を目の前にした大の大人である事を忘れ、泣きます。そして意味がわからないままに現地の人の対応を信じて身を委ねます。高額な医療費を頭の片隅で覚悟し、生きて日本へ帰れますように。とそっと願うでしょう。
でも、どうでしょう。そこに日本語を話せ、医療の基礎知識を持ち、現地の医療制度を理解し、適切に対応してくれる通訳者が現れたら。私なら、嬉しくて、安心して、また泣きます。
私は、2018年に沖縄国際交流・人材育成財団が主催する医療通訳講座を受講しました。受講するきっかけになったのは、家族の付き添いで総合病院を訪れた際に、外国人が病院の受付で戸惑っている姿を見た時でした。
私の夫も外国人なので、病院や役所、日本語対応が必要な

機関へは同行していました。しかし、日本に住む外国人が必ずしも通訳を同行できる環境にあるとは思えません。また、付き添いでいく私自身も仕事をしており、家族に安心して医療を受けてほしいと願う一方、時間の確保は容易なものではありませんでした。

そんな時に知った医療通訳養成講座。誰かの役に立てるかもしれない、という思いで受講を決意しました。講座では薬剤師や、小児科医、精神科医、実際に医療通訳活動に励む先輩方のお話を聴くことができ、幅広い知識をつけることができました。また、講座参加者は年齢も性別もバックグラウンドも違う方々で、とても刺激的でした。最初は緊張こそあったものの、講座を終える頃には皆クラスメイトになっており、別れるのが寂しかったのを覚えています。今年行われた資格更新の認定テストの範囲は幅広く、日本の医療・在留資格・社会保障制度等に関する問題から始まり、疾病と病態、人体各器官、通訳論理、医療通訳者の役割、と多岐にわたるものでした。仕事をしながらの自己学習は大変なものもありましたが、人材育成財団の方々がいづでも快く相談に乗ってくださったので、分からないところは質問しながら自己学習を進め、無事認定を受けることができました。

今後、新型コロナに関する規制の緩和が進み徐々に外国人労働者、観光者が戻ってくるでしょう。同時に、医療通訳の要請も増加すると思われますので、医療通訳者養成講座や認定試験の勉強の過程で身につけた医療通訳者としての適正な知識を活かし、医療を必要とする人たちが言語や制度の壁で悩むことがないように、少しでも力になれば本望です。



「信頼される医療通訳者を 目指して」

フレッチャー 節子 さん

はじめて「医療通訳」という通訳分野を知った際、30年ほど前に海外で体調を崩した時のことを思い出しました。幸い診て下さった医師がゆっくりと丁寧に、わかりやすい英語に言い換えて説明をして下さったおかげでなんとか治療を受けることができましたが、異国の地で病気になるとはこれほど心細いものなのかと思い知らされました。言葉が通じる自国でも医療機関での受診は緊張を伴います。体調が悪い時に言葉の心配や医療システムについての知識がないことの不安から来るストレスは大きなものでした。

この度、医療通訳者認定をいただき、言葉の問題を抱えながら日本で生活をされている外国人の方に安心して医療サービスを受けていただくためのお手伝いができることをとても嬉しく感じております。

認定に先立って受講をさせていただいた医療通訳者養成講座では医療英語、通訳技術だけではなく、実際にあった事例から、正確かつ円滑に通訳を行うための留意点、医療通訳者に求められる倫理に関する知識や異文化仲介者としての役割について実践的なロールプレイを行いながら学ばせていただきました。特に出身国が英語圏以外である患者に対しては「やさしい英語」に言い換えること、言い換えるためにその語彙が何を意味するのかを勉強し、把握する必要があるという教えは早速、認定後の通訳活動で活かすことができました。

医療通訳者は「話し手の意図を正確に伝える」だけでなく、最善の医療行為がなされるために必要な医師と患者とのコミュニケーションを円滑にする重要な役割を担っているということも毎回の通訳活動の中で再認識させていただいています。

自国に戻られた時に「日本では安心して医療サービスを受けることができた」「日本は外国人にとって住みやすい国だった」と思っていただけのように、医療知識と通訳技術の向上に努めることはもちろん、日頃から様々な国の文化や風習に興味を持ち、異文化仲介者として「理解」「思いやり」「気遣い」を持って、信頼いただける医療通訳者として活動を行なっていきたいと思っております。

日本語教室受講者



interview インタビュー

質問

- ① いつ日本に来ましたか。
- ② いつから日本語を勉強していますか。
- ③ どうして日本語を勉強していますか。
- ④ OIHF での日本語の勉強は怎么样了か。
- ⑤ 日本語が上手になつたら、何がしたいですか。

Alok Pratap / アロックマン
(Bihar, India / インド出身)



① 2010年9月

② 特にありませんが、2018年6月より

③ 仕事の同僚との交流に役立つからです。

④ 以前とは全く違います。日本語を学ぶための練習問題が多く、会話だけでなく、文章を書くときにも役立っています。

⑤ 流暢な日本語を必要とする様々なプロジェクトに関わって、仕事で成功したいです。

Katherinep / キャサリンマン
(Cambridge, Ontario,
Canada / カナダ出身)



① 2020年2月

② 2020年1月から2021年10月まで Duolingo を使っていました。2022年3月から Genki の本を使っています。

③ 仕事に必要で、個人的な目標を達成したいから。

④ 先生と話するのは大変ですが、毎週通う場所があるのは好きです。

⑤ 新しく出会うすべての人と話し、彼らの生活について学びたいです。

セレスタ ビラタ クマルマン
(ネパール出身)



① 2014年8月

② 2014年8月から

③ 仕事で必要だからです。

④ 漢字の読み書きが難しいですが、友だちもでき方なので楽しいです。

⑤ 日本の新聞をすらすら読めるようになって、たくさんニュースを知りたいです。

謝さん
(中国出身)



① 2013年7月

② 2013年10月から

③ 日常生活で必要だからです。

④ 皆さんと一緒に話しながら勉強できるからいいと思います。

⑤ 仕事がしたいです。

第1回 日本語学習サポーター育成ウェビナー

開催日時：2022年7月22日（金）9：30～11：30

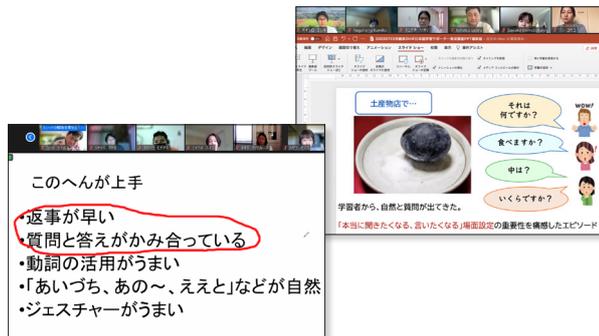
講師：横浜国立大学教育学部 非常勤講師 嶽肩 志江 氏

参加者人数：23名

OIHFでは文化庁の助成金を受け、沖縄県内における外国人の日本語学習に貢献すべく「日本語学習サポーター」の育成に取り組むことを目的として昨年度より、ZOOMを使用したウェビナーを開催しております。今年度、第1回目ウェビナーでは、講師に横浜国立大学教育学部 非常勤講師の嶽肩先生をお招きし、「地域日本語教室と日本語学習サポーターの役割」に焦点をあてたウェビナーを開催しました。

日本語教師の資格を持っていないくとも出来る取り組みとして、文法を一から教える方法ではなく、イラストやフレーズが記載されている教材を使用し学習者との対話を通して日本語を教える方法や他県の公民館で実際に行われている日本語教室の風景をウェビナーに参加した方々とグループワークなども交えながら「日本語学習サポーターの役割」について学びました。

参加者からは「改めて生活者（沖縄に在住している外国人）の支援を考えました」や「どんな立場の学習者であっても、相手の声を聴くというスタンスで接していきたいなと思います。」「地域の日本語学習サポーターというもののあり方が理解できた。」など多くの嬉しい感想が寄せられました。



第2回 日本語学習サポーター育成ウェビナー ～対話型日本語教育のススメ～

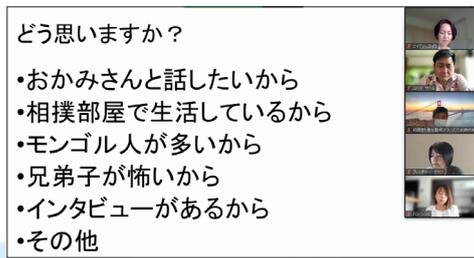
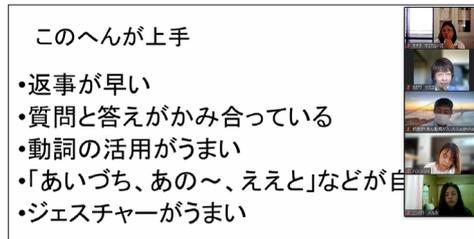
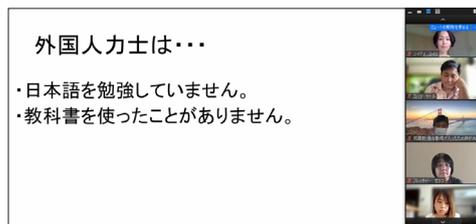
開催日時：2022年8月18日（木）9：30～11：30

講師：聖心女子大学 現代教養学部 日本語日本文学科 教授 岩田 一成 氏

参加者人数：20名

第2回目のウェビナーでは講師に聖心女子大学の岩田先生をお招きし「対話型日本語教育のススメ」と題し、「日本語が上手いかとはなにか」という問いからウェビナーを始めていきました。日本語が上手いとは単に「語彙や発音が日本人のようにできる」という事ではなく「会話の受け答えの速さ」にある事、対話をベースとした方法であれば専門的な知識や免許がなくとも、「サポーター」として日本語を学ぶ手助けができることを学びました。

また、どんな日本語を学びたいと思っているのか、学習者のニーズを知る必要が重要である事。例えば、子供がいる外国人住民の方々からは実際に「子供の学校からの手紙を理解したい」や日本人でもわかりにくい役所での手続きや通知などを理解するために「やさしいにほんご」が理解できる日本語を学びたいという方が多く、必ずしも文法から学んで動詞の活用などを学びたいと考えておらず、より実生活に即した日本語を勉強したいと考えている人が多くいる事を知るよい機会が持てました。ウェビナーに参加頂いた皆様からは「外国人に寄り添って、その方の必要な日本語支援をしていくという地域日本語教室のあり方がよくわかりました。」や「生活者としての外国人に対する具体的なサポートのイメージがつかめました。」「文法にこだわり、英語（第二外国語）を学んできているので、ボランティアとして、日本語を教えるのに躊躇していたので、気持ちが楽になりました。」など、1回目に続き多くの嬉しい感想が寄せられました。是非、今後もこのような取り組みを続けていきたいと考えておりますので、第3回目のウェビナーにも是非ご参加ください！



イベントのご案内

多くの皆様からのご参加をお待ちしております。

3回目のウェビナーでは沖縄在住の外国籍・外国出身者の方々4名に沖縄にきた経緯から、どのように日本語を学び、習得していったか、実際の体験を交えてお話をします。

第3回 日本語学習サポーター育成ウェビナー

- 募集期間 ~ 2022年10月14日(金)
- 実施日時 2022年10月31日(月) 9:30~11:30
- 場 所 ZOOM
- 定 員 40名程度
- 参加費 受講無料
- 参加方法 申し込みフォームからお申込みください。



宜野湾市立普天間中学校で「避難所体験会」を行います。非常食の無料配布もあります！ 災害時の避難所の様子をみたり実際に非常食を食べたり、段ボールベッドの設営や防災グッズを体験することができます。

避難所体験会 災害時の避難所を体験してみませんか!?

- 募集期間 ~ 2022年10月16日(日)
- 実施日時 2022年11月12日(土)9:30~13:30
- 場 所 宜野湾市立 普天間中学校 (宜野湾市新城2丁目41-1)
- 定 員 避難所運営チームと避難者役合わせて100名程度
- 参加費 無料
- 参加方法 当日はご自由にご参加(出入り)下さい。

- どなたでもご参加いただけます。お年寄りやお子さま、皆様のご参加をお待ちしています。(申請不要)
- OIHFの「災害時外国人支援サポーター」は、参加に際して申請が必要です。



外国人から寄せられる相談は、在留資格・労働問題・相続など多岐にわたります。そこで当財団と相談者、また弁護士等相談に応じる内容を専門的な「通訳者」として相談者支援対応することができるサポーターを育成します。

2022年度「リーガル・ライフサポーター養成講座」

- 募集期間 ~ 2022年10月23日(日)
- 実施日時
 - 講座 11月11日(金)9:00~16:30
 - 1次テスト(筆記) 11月26日(土)9:00~10:00
 - 2次テスト(逐次通訳)12月10日(土)または12月11日(日)
- 場 所 沖縄産業支援センター
- 定 員 30名程度
- 参加費 受講無料
- 参加方法 参加要件をご確認いただき、10月23日(日)までにお申し込み下さい。



OIHF法人賛助会員様



沖縄ツーリスト

沖縄県商工会
連合会

パシフィックホテル
沖縄

(順不同)